

関節リウマチ（rheumatoid arthritis : RA）の対する鍼灸治療

東京大学医学部附属病院リハビリテーション部鍼灸部門 粕谷大智

近年、関節リウマチ（RA）の治療に関する進歩は著しく、新しい抗リウマチ薬や生物学的製剤などが開発され、RA の治療の選択肢が増えつつある。また EBM に基づいた RA 治療ガイドラインも改訂され広く受け入れられている。しかし現時点では RA を治癒することは難しいため「身体の機能障害を阻止する」「関節破壊を阻止もしくはコントロールする」が治療の大きな目標となる。すなわち RA 患者の QOL を維持、向上を図ることである。

RA に対する鍼灸治療は、関節の痛み、こわばり感を軽減し、血行の改善や精神的安定も得られるため基礎療法として有効な治療手段と考えられる。我々が3年間にわたり厚労省長寿科学研究事業として関節リウマチに対する鍼灸治療の多施設ランダム化比較試験を行った 170 例の結果でも、現状の薬物療法に鍼灸治療を併用することで薬物療法単独よりも有意に関節の腫れや痛み、日常生活動作など QOL の向上を認めている。

今回は、鍼灸臨床における他関節症状の鑑別と鍼灸治療の役割について述べたい。